

# 第71回NPO法人日本口腔科学会学術集会 ランチョンセミナー3 (LS3)

## 口腔ケア -言うは易く行うは難し-

座長

田中 宏史 先生

済生会西条病院 歯科口腔外科

演者

小川 泰治 先生

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座  
有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野

日時

2017年4月27日(木) 11:50~12:40

会場

D会場／ひめぎんホール 3階 第6会議室

(愛媛県松山市道後町2丁目5-1 愛媛県県民文化会館)

- ※ ランチョンセミナー整理券は、4月27日(木) 8:30 ~ 11:00  
ひめぎんホール 1階 サブホールホワイエ 総合受付付近 にて配布いたします。  
(整理券がなくなり次第、配布終了いたします)

## 抄 錄

# 口腔ケア－言うは易く行うは難し－

口腔ケアという用語は高齢化が進行する現代社会において広く浸透しており、社会的関心も高まっています。口腔ケアの歴史を辿ると、古くは100年前の文献にオーラルケアについての記述がみられます。近年では、学術的な観点からの口腔ケアの効果が数多く報告されています。エビデンスの蓄積に伴い、口腔ケアは疾病の予防や健康維持・増進、Quality of Life の向上に貢献できる手法であることが多くの人に認識されています。また、患者の口腔内の状態をみれば看護の質がわかる、とも言われます。しかし、実際に口腔ケアが必要な人の口腔を清潔に保持することは非常に困難であるのが現状です。

口腔ケアの現場では多職種が関わるため、それぞれの役割分担が不明瞭となり、一部の方法論が偏重される場合があります。そして口腔ケアの目的やゴールの認識の不一致が、昨今の現場における問題であると思われます。したがって、職種や方法論に左右されず、統一された口腔ケアのコンセプトを構築し、現場で共有することが必要です。何より、誰もが容易に行うことのできるシンプルで効果的な口腔ケア方法を確立することが今後の課題であると考えます。

口腔は呼吸器および消化器への入り口であり、健康状態に直結する重要な器官です。抗菌薬療法が確立された現代であっても依然死亡率の高い老人性肺炎の多くは、口腔内常在菌の不顕性誤嚥に起因すると考えられています。また、細菌の生育に適した温度、湿度、酸素、栄養などの条件が整っているため、口腔はしばしば細菌の培養器にも例えられます。口腔内から細菌を完全に排除するのは不可能なため、口腔ケアは際限なく増殖を繰り返す、細菌という目には見えない敵との攻防であるとも言えるでしょう。

そこで、本セミナーでは、演者が学んだ口腔細菌学の視点からの口腔ケアについてご紹介させていただきます。

## 小川 泰治 先生

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座  
有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野



- 2006年 大阪大学歯学部歯学科卒業
- 2007年 大阪大学歯学部付属病院 研修歯科医
- 2011年 大阪大学大学院歯学研究科修了、大阪大学歯学部付属病院 医員
- 2013年 チューリッヒ大学病院ポスドク研究員
- 2014年 大阪大学歯学部付属病院 医員
- 2015年 大阪大学大学院歯学研究科特任助教
- 2016年 大阪大学大学院歯学研究科助教
- 現在に至る